

長崎県議会令和5年11月定例会

深堀ひろし議員が西九州新幹線の今後について発言

12月1日に開かれた長崎県議会令和5年11月定例会で、深堀ひろし議員（改革21）が一般質問を行い、西九州新幹線の今後にむけた取り組みについて発言した。

【深堀議員】

開業1年間の西九州新幹線の利用者は242万人でJR九州によると堅調に推移しているとのことである。長崎駅前も官民の建設投資が非常に盛んであり、九州経済調査協会と長崎経済研究所の試算によると長崎と佐賀両県への公共投資と民間の設備投資による経済波及効果が1736億円に上るとされている。長崎県として西九州新幹線開業1年間の効果をどのように評価しているのか明らかにされたい。



【長崎県・地域振興部長】

西九州新幹線は開業以来多くの方にご利用いただき、駅周辺では商業施設やマンションの建設が進んでいる。旅行会社や宿泊事業者からは新幹線を活用した旅行商品の販売は好調に推移し旅行者が増えていると聞いている。現在、県では新幹線効果を具体的な数値で示すため、利用者の動向や県内での消費額などを調査している。調査結果については、市町や関係事業者とも共有を図っていきたいと考えている。

【深堀議員】

しっかりと分析していただき、分析結果を今後実施される施策の構築に反映させることが事業効果を高めることに繋がるため、ぜひお願いしたい。また、新幹線の全線フル規格化を目指すためには、開業2年目以降も新幹線効果を高める取り組みを地道に継続していく必要がある。これまでも沿線地域等と連携したイベントや来訪者の周遊促進に取り組まれているが、こうした取り組みに加え、通勤通学を始めとした日常的な利用を促進する対策も模索するべきだと考える。県の考えを明らかにされたい。

【長崎県・地域振興部長】

県では、西九州新幹線の開業効果を高めるため新幹線の利用促進や県内各地への周遊対策を始め各種イベント等による魅力の発信などに取り組んできた。今後、全線フル規格化にむけた機運を醸成するためには観光やビジネスだけではなく日常的な利用を促し、利用者数の底上げを図ることが重要と考えている。そのため県では県民の通勤・通学等での新幹線利用を促す新たな取り組みについてJR九州や各市町等々と協議していきたいと考えている。

【深堀議員】

ぜひ日常的な利用を促す取り組みをお願いしたい。通勤・通学の定期購入数を伺ったところ、新幹線開業前の特急列車時代と大きく変わっていない。新幹線をもっと県民に利用して貰い、新幹線の効果を実感して貰う、県民に効果を広げて貰う必要がある。また、新幹線のフル規格化にむけては佐賀県の皆さんの理解が必要であることは何より当然のことである。そういった意味で、佐賀県や佐賀県知事としっかりと連携を取っていただき、議論が前に進むようにぜひお願いする。

JRの政策課題実現に向けて協働・協力してくれる議員を応援しよう！